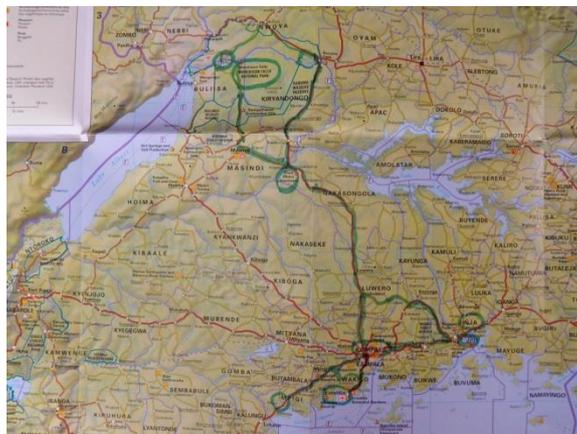


カンパラ通信～ナカセロの丘から

第14回 「ナイルの揺り籠を旅して」 ツアー

アフリカならではの野生の動物については、カンパラ通信の第7回で少し触れましたが、今回は、それとも関係しますウガンダの観光についてお話ししたいと思います。と申しますのは、1990年代のウィーン勤務中に知り合い、今も家族ぐるみで親交のある日本人家族がウガンダ観光に興味を持ってくださり、この8月に遠路はるばる訪ねていただきました。そして私も彼らと一緒に前回のカンパラ通信でご紹介したサミュエルの軽妙な案内でウガンダ国内を巡り、改めてウガンダの魅力に触れたからです。そして、訪問地のうちの一つが「マチソン・フォールズ国立公園」で、10年ぶりの同公園を訪ね懐かしさもひとしおでした。将に自然の宝庫で、このことを多くの皆さんに紹介しない手はないと思ったからです。

ところで、皆さんは今年に入って日本のテレビ番組で3回もウガンダが紹介されたことをご存知ですか？まず、5月13日にTBS系列の「世界ふしぎ発見！」でウガンダ特集があり、7月18日にはテレビ朝日系列の「世界の村で発見！こんなところに日本人」で私が勤務する在ウガンダ日本大使館の職員が登場し、去る8月12日のTBS-B Sでは「夢の鍵」という番組でやはりカンパラ通信第2回で紹介したスマイリーアース社の奥社長が紹介されていました（因みに筆者も少しだけ写ってました。さらに言いますと、10月18日には日本テレビの番組「笑ってこらえて」で日本語を話すウガンダ人がとりあげられると聞いております。）。ウガンダが日本のテレビで紹介されることが続いたのを機会に、是非多くの日本の方々にウガンダを訪問していただきたいという希望から、私が推奨するウガンダの魅力満載の観光モデル・コースをこれからご紹介したいと思います。



ツアーコース地図

残念ながら、ウガンダという国はまだまだ日本人の間で知られておりません。上記のテレビ番組を見て少しでもウガンダに関心を持つ人が増えてくれればと思っておりますが、なかなか簡単に行かないのが現実でしょう。そこで私は考えました。「ウガンダ」という名前は日本では知られておりませんが、ナイル川、世界最長の川であるこの川の名を知らない人はいないはずですが、ナイル川と言うと、日本人の頭に浮かぶのは「エジプトはナイルの賜物」という言葉に象徴されるように、地中海に注ぎ出る滔々たる下流の風景なのではないでしょうか。しかし、ナイル川の始まる国は、はたしてどこなのか？ということまで、考えが及ぶ人となると少数派でしょう。そのナイル川が生まれるところがウガンダなのです。

こういう風にナイル川をキー・ワードにすると親しみ感が湧いたり、一度は行ってみたいかなあという気持ちが生まれてこないかなあ、と期待しています。そういう気持ちで旅のルートを考えてみました。それでは、ナイルの揺り籠の旅のはじまりです。

旅の玄関口はエンテベ国際空港です。エンテベ空港は、アフリカ最大の湖にして世界第二位の淡水湖であるビクトリア湖に突き出た小さな半島の先に位置します。そこから首都カンパラまでは40km足らずの距離ですが交通渋滞が恒常化しておりますので、平均して1時間半くらいはかかると覚悟してください。そして、まずはカンパラのホテルにチェックインです。カンパラでは、街の中心にあるカダフィ・モスクを訪ねてください。このモスクは、名前のとおりリビアの指導者カダフィ大佐により建立された回教寺院で、サハラ砂漠以南では最大の大きさを誇っています。このモスクの80mの尖塔ミナレットからカンパラの街を一望できるからです。ただし、エレベーターの設備はありませんので、ご注意ください。夜は、地元の食事のビッフェとウガンダ各地の民族ダンスのショーが楽しい司会者付きで満喫できるンデレ・センターで過ごす旅の良い記念になると思います。このダンス・グループは2005年の愛知万博で躍動感あふれる民族ダンスを披露しました。ただし、開園日は水、金、日だけですので、気を付けて下さい。



偉容を誇るカダフィ・モスク



ンデレ・センターの舞踊チーム

翌日はカンパラを後に最初の訪問地ジンジャへ向かいます。ジンジャは、カンパラから東に80kmほど行ったところにあるウガンダ有数の産業都市です。ジンジャまでの車窓から手入れの行き届いた茶畑や広大なサトウキビのプランテーションがお楽しみいただけます。町の傍らのビクトリア湖とナイル川の境界にあたるのがナイル川が誕生する地点となります。その境界付近の地下から湧水が出ており、これを人々は「ナイルの源流」と呼んでいます。昔はこの湧水が噴き出ているのが見えたというのですが、下流に水力発電所を建設した今では吹き出し口は水面下に沈んでしまっていますが、水が湧き出ている様子が水面の盛り上がりで今も見取れます。「ナイルの源流」、ちょっと覗いて見たくありませんか。



ナイルの源流



建設中の新ナイル橋

カンパラからジンジャに行くにはナイル川に架かるナルバーレ・ダムの上の橋を渡って行かなければなりません。この橋は1954年に建てられました。ウガンダへの物流はほとんどがケニアのモンバサ港に頼っているのですが、この橋を渡らないことにはカンパラに届きませんし、海外への出荷もままなりません。そのためトラックやローリーといった大型車の交通が多く、建設後60年以上経ち橋の傷みが激しく時速20kmの速度制限がかけられています。その端(橋)から少し上流のところに日本の円借款を使って日本と韓国のジョイント・ベンチャーで新しい橋の建設が進んでいます。ナルバーレ・ダムを渡るときにこの建設工事風景が見られます。来年の夏から秋にかけて完成する予定ですが、きっとこの橋も観光スポットの一つとなること間違いなしです。なお、ダムから更に下流へ行きますとナイルも急流となっており、ラフティングを楽しめます。気軽に参加されてはいかがでしょうか。

「ナイルの源流」の町ジンジャを後にして、三日目は、開発途上国らしいでこぼこの田舎道を通って行って、ルウェロという町でカンパラからウガンダ北部に向かう幹線道路に合流して北に向かいます。マチソン・フォールズ国立公園に導いてくれる街道です。ルウェ

口から北に200kmほど行ったところでナイル川と再会します。カルマ橋という短い橋を渡る時のナイル川は細く、流れが激しく荒々しい急流となっており迫力ある風景が楽しめます。その橋を渡ると路上に餌を待つたくさんのヒヒが出迎えてくれます。そうこうしているうちにマチソン・フォールズ国立公園の東の玄関口にぶつかります。

マチソン・フォールズ国立公園は幾つかの入口があるのですが、ここ東口はチョベという国立公園内で一番新しいロッジに行くのに便利となっています。チョベ・ロッジのテラスから荒々しく流れるナイル川を見ながらウガンダ料理に舌鼓を打ち現地特産のコーヒーで一服するのもおつまみものです。チョベ・ロッジに行く道中にもキリンやウガンダ・コブといったシカ類の姿を楽しめますが、本格的なサファリ・ドライブはそこから西に100kmほど走ったところにあるパーラ・ロッジに泊まると便利です。



チョベ・ロッジからのナイル川



キリンの群れ

マチソン・フォールズ国立公園はこのように非常に広く、その敷地は埼玉県面積を上回る3,840平方kmもあります。そして、マチソン・フォールズ国立公園ならではのナイルの流れを見ることが出来るのも旅の醍醐味です。パーラ・ロッジを根城に3時間ほどドライブすると、象の群れを間近で見られますし、優雅に悠々と歩くキリン、そして、ウガンダ・コブに代表される数多くのシカ類、バッファローの群れも嫌というほど見られます。申し遅れましたが、公園内の移動は自家用車に乗るにしてもパークレンジャーの同行が義務付けられています。ライオンや豹といった肉食動物はなかなか見られないかもしれませんが。肉食動物に出会うにはドライブに付き添ってくれるこのパークレンジャーのおじさんの経験と直観にかかっているといてもおかしくないでしょう。幸運なことに私は8月にこのマチソン・フォールズ国立公園を訪れた時には、2か所で合計3頭のライオンと木の枝の上で寛ぐ豹1頭を見ることができました。これもパークレンジャーさんのおかげでした。



象の親子



ライオン

マチソン・フォールズ国立公園の楽しみはサファリ・ドライブをしながら動物を見るだけではありません。この国立公園らしいアトラクションは、何といてもその名の通り幅6 mほどに狭められ落差42mの滝、マチソン・フォールズになって下流に水を注いでいるナイル川そのものなのです。この規模の大きさをご想像できますか？パーラ・ロッジの近くのナイル川の船着場から観光ボートが出ていて、滝に向かってナイル川を上っていくのです。ナイル下りならぬ上りをしながら川岸で数えきれないほどのカバに出会います。象が何頭も水を飲みにきたり、たくさんのワニが沿岸を泳いだり岸で休んでいますし魚を捕る何種類もの色取り取りの鳥が飛来しているのです。このボート・クルーズを逃す手はありません。このように魅力満載の国立公園ですので、少なくとも2泊をお勧めします。



カバ



マチソン・フォールズの滝

第五日目となる国立公園からの帰りは、フェリーでナイル川を渡って南岸に行きます。そして、公園の出口をでたところで左手の道を通して北部ウガンダからカンパラに向かう幹線道路に合流します。合流地点からすぐのところ、Ziwa Rhino Sanctuaryという絶滅に瀕

する種に指定されているサイの保護区があります。ウガンダではかつて生息していた白サイも黒サイも絶滅していたのですが、2005年に6頭の白サイを米国とケニアから輸入し、この保護区で保護・繁殖させていて現在では21頭に増えています。時間が許せば是非ここにもお立ち寄りください。この日はカンパラに宿泊して翌日のエンテベ空港からの出発に備えて下さい。または、エンテベのホテルに宿泊して、1902年創立の植物園に立ち寄るという手もあります。植物園ではありますが、アフリカならではのたくさんの鳥が見られるからです。バードウォッチャーには特に見逃さないでしょうか。

ナイル川とは関係がありませんが、旅の最後に、せっかくウガンダまで来たのですから「赤道をまたぐ」という経験をする価値はあるでしょう。赤道が通過している国は世界で12か国しかありません。その中でも首都からアクセスしやすい国はさらに限られるでしょう。ウガンダの場合には、首都カンパラから南西に向けて80kmくらいの道を1時間30分程度走ると赤道に到着します。このように赤道で「アフリカの真珠」と異名のあるウガンダの旅を締めくくり、ビクトリア湖に手を振りエンテベ空港から出発することになります。



赤道を跨ぐ筆者



赤道跨ぎ証明書

如何でしたか、「ウガンダ～ナイルの揺り籠を旅して」のツアーは？これらを踏破するのに5～8日のウガンダ滞在であれば何とか可能です。ウガンダに入国するためには、黄熱病のワクチン接種を証明するイエローカードが必要になります。また、首都カンパラはともかく地方を旅行するとなると蚊に刺されない対策をしておく必要があります。さもないとマラリアに罹患する惧れがあるからです。このような対策をきちんととった上でウガンダ旅行「ウガンダ～ナイルの揺り籠を旅して」を満喫していただければと存じます。

1年を通して首都カンパラでは最高気温が30℃を超えることはなく最低気温も20℃を下回ることはないウガンダの気候の良さとうガンダ人の親愛溢れるホスピタリティは折り紙付きですので、安心していらして下さい。

(以上)